

指導者 青木 さゆり (T1)

谷 真喜子 (T2)

- 1 題材名 いろいろな音を楽しもう  
教材名 表現 音楽づくり「がっきでおはなし」  
歌唱 「虫の声」  
鑑賞 「だがっきパーティー」

## 2 題材について

本題材では、打楽器の音色の特徴や響きの違いを感じ取りながら、音色やリズムの組み合わせ、強弱などを工夫し、いろいろな音を楽しむことをねらいとしている。

小学校低学年では、声や身の回りにある音、扱いやすい小物楽器等、身近にある音の出るものを活用し、いろいろな音を楽しむ経験をするのが大切である。興味・関心をもって様々な音にふれ、めあてをもって音を聴く経験を積み重ねることで、音色や響きなどの音の特徴を感じ取る力が育ち、音に対する感性が深まっていくと考える。

音楽活動を行うにあたり、「音を聴くこと」は不可欠である。自分の奏する音をよく聴くこと、そして相手の奏する音をよく聴くこと、さらに自分と相手の奏する音をお互いが聴き合って合わせることで、音楽表現がより充実してくるだろう。本題材でも、打楽器の音色を感じ取る鑑賞の学習で、音を聴くことから始まり、いろいろな音を試しながら表現するという、自分の音をよく聴く学習を経て、さらに相手の音を受けて、自分が思考判断した音で答えるという活動を取り上げる。自分自身の音をよく聴いたり、相手の音をよく聴きそれを受けて表現したりしていくことは、内容や曲の難易度が変わろうとも、共通する大切な土台となると考える。

## 3 題材の目標

- 音楽の仕組み（問いと答え）を生かし、音楽を特徴づける要素（音色・リズム・強弱）を工夫しながら、思いをもって音楽づくりをする。

## 4 研究の視点について

【視点3】「音楽を形作っている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

- 「音楽を特徴づける要素」に着目した音遊びの日常的な実践

「音楽を特徴づける要素」（音色・リズム・強弱・拍の流れ・問いと答え）が身近なものとして関わられるように、その要素を含んだ「音遊び」を常時活動の中に取り入れるようにする。普段の活動の中で、教師が出す打楽器の音色や友だちのリズムをまねる遊び、拍の流れにのって音をつなげるリズムリレー、音のバトンと称して音を相手に受け渡す音遊び等を実践する。

- 「音楽の仕組み」を生かした音楽遊びや音楽づくり

本題材では、第一次の鑑賞で、打楽器の音色や響きを感じ取り、様々な楽器に触れる学習を行う。第二次では、音楽の「問いと答え」の仕組みを支えに音楽遊びや音楽づくりを行う。まず、第2時は4種類の楽器の音色を楽しみながら、拍の流れにのって交互にリズム打ちをすることで「問いと答え」という音楽の仕組みに親しむ。第3時は、個々が選んだ楽器でさまざまな音色・リズム・強弱などの工夫を加えながら拍の流れにのって交互にリズム打ちをする。第4時の歌唱曲「虫の声」では、虫の鳴き声を歌う組と、それ以外を歌う組に分かれ交互唱をすることで、歌唱曲にも「問いと答え」が使われていることに気付かせる。

第5時（本時）では、今までの既習事項を全て生かし、一定の拍の流れがない中でも、「問いと答え」の音楽の仕組みを生かして、音色やリズム、強弱を工夫（思考・判断）しながら、話しかけたり答えたりする気持ちをもって音楽をつくる（表現）力を身につけさせたい。

## 5 題材の指導計画（5時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次	ねらい	楽器の音色の特徴を感じ取りながら音楽を聴く。	
	第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「だがつきパーティー」を聴く。</li> <li>・楽器の音色の特徴や響きの違いを感じ取りながら聴く。</li> <li>・曲に使われる楽器（ウッドブロック・トライアングル・クラベス・カスタネット・小太鼓・すず・タンブリン）に触れ、音色の特徴や響きの違いをつかむ。</li> <li>・自分の好きな音色を見つける。</li> </ul>	<p>打楽器の音色を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 （音楽への関心・意欲・態度①）</p> <p>打楽器の音色の特徴を聴き取り、音色や響きの違いを感じ取って聴いている。 （鑑賞の能力①）</p>
第二次	ねらい	演奏の仕方を工夫して、「問いと答え」を生かしながら音楽をつくる。	
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拍の流れにのって、問いと答えの音楽を楽しむ。</li> <li>・4つのリズムパターンを確認する。</li> <li>・楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）とリズムパターンを選び、問いと答えになるように、拍に合わせてリズム打ちをする。</li> <li>・様々な楽器やリズムを使い、音遊びを楽しむ。</li> </ul>	<p>打楽器の音色の特徴に興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。 （音楽への関心・意欲・態度②）</p>
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拍の流れにのり、演奏の仕方を工夫して、問いと答えの音楽を楽しむ。</li> <li>・楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）から、各自楽器の一つを選び、いろいろな演奏の仕方を試す。</li> <li>・問いと答えになるように、拍に合わせて演奏の仕方を工夫したリズム打ちをする。</li> <li>・それぞれの楽器のいろいろな音色を聴いて楽しむ。</li> </ul>	<p>打楽器のいろいろな演奏の仕方を試し、思いをもって、問いと答えを生かした音楽をつくる工夫をしている。 （音楽表現の創意工夫①）</p>
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「虫の声」を歌唱する。</li> <li>・虫が鳴いている様子を想像し、鳴き声を擬音語で表す。</li> <li>・虫の鳴き声を歌う組と、それ以外を歌う組に分かれて交互唱をする。</li> <li>・虫が鳴いている様子を想像しながら歌唱する。</li> </ul>	<p>「虫の声」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、歌っている。 （音楽表現の創意工夫②）</p>
	第5時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拍の流れにとらわれずに、演奏の仕方を工夫して、問いと答えにのって演奏する。</li> <li>・虫の鳴いている音を聴き、拍の流れにのった音楽との違いを見つける。</li> <li>・いろいろな表情の虫の絵から、虫の気持ちを想像し、楽器（カスタネット・すず・トライアングル・タンブリン）で表現する。</li> <li>・虫の気持ちを、音色やリズム、強弱、問いと答えを工夫して楽器で表す。</li> </ul>	<p>打楽器の音色の違いを感じ取り、リズムの組み合わせや演奏の仕方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いを持っている。 （音楽表現の創意工夫③）</p> <p>打楽器の音色の特徴に気付き、いろいろな演奏の仕方を見つけ、問いと答えを生かした音楽づくりをしている。 （音楽表現の技能①）</p>

## 6 本時の学習（5／5）

### （1）目標

音楽の仕組み（問いと答え）を生かし、音楽を特徴付けている要素（音色、リズム、強弱）を工夫して、虫の気持ちになって楽器で表現する。

(2) 展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり (T 1 T 2) ◆評価規準〈評価方法〉
1 常時活動 (音遊び) を行う。 2 「虫の声」を歌う。 3 本時のめあてをつかむ。	○本時の学習につながるような音遊びを取り上げる。 ○虫によっていろいろな鳴き声があったことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">虫になっておはなしをしよう</div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に虫が鳴いている音を聴き、拍の流れにのっている音楽との違いを見つける。</li> </ul> 4 虫の気持ちを楽器で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カスタネット・すず・トライアングル・タンブリンの中から、一つ楽器を選ぶ。</li> <li>・絵の表情から虫の気持ちを想像し、楽器で表現する。</li> </ul> 5 虫になって、楽器で即興的におはなし (音楽づくり) をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と児童でおはなしをする。</li> <li>・児童同士でおはなしをする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の前で発表する。</li> </ul>	○実際には、拍にのらずに鳴いている虫もいることに気付かせる。  ○児童に好きな楽器を選ばせる。どの楽器も、音色やリズム、強弱を工夫することで、いろいろな音が表現できたことを思い出させる。 ○5種類の表情の虫の絵を用意し、虫の気持ちを想像させ音で表現させる。 (笑っている顔・泣いている顔・怒っている顔・ほのぼのとしている顔・焦っている顔)  ○拍の流れにとらわれずに自由な速度で表現できるようにする。 ○実際の虫の音を表現することが目的ではないので、音色や強弱、リズムを工夫して、自分なりの虫の気持ちを表現できれば良いこととする。  ○リズム、音色、強弱を工夫し、問いと答えを意識して活動できるよう伝える。 ○児童同士が活動をしているときに活動観察と演奏聴取 (評価) を行い、児童の楽器カードにシールをはる。また、楽器カードにシールを張る場所を決めておき、評価を記録する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆打楽器の音色の違いを感じ取り、リズムの組み合わせや演奏の仕方を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いをもっている。              (音楽表現の創意工夫②)              〈活動観察・演奏聴取・発言〉</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆打楽器の音色の特徴に気付き、いろいろな演奏の仕方を見つけ、問いと答えを生かした音楽づくりをしている。              (音楽表現の技能①)              〈活動観察・演奏聴取・発言〉</p> </div> ○発表者には虫の帽子をかぶらせて、楽しい雰囲気作りをする。
6 学習の振り返りをする。	○楽器の音色やリズム、強弱や問いと答えを生かして楽しみながら活動ができたか、学習のまとめをする。